

聖書：エペソ人への手紙6章10～17節

説教：大能の力によって

はじめに

前回までのことを振り返ります。妻は夫に従う、子どもは両親に従う。奴隷も主人に従うというように、そこだけ切り取れば、人権を無視した時代遅れの教えのように見えました。しかしパウロはこうも言っていた。夫は妻を愛しなさい、両親は主の教育と訓戒によって子どもを養いなさい、主人は奴隷を公平に扱いなさい。キリストが私達を愛してくださったようにあなたがたも互いにそうしなさい。あらゆる人間関係について、キリストを模範として歩みなさいと言われました。

しかしこれがそう簡単なことではないことは皆さんもご存じです。堅い信仰をもっていたパウロはできても、私たち凡人クリスチャンはとても無理。いったいどうしたらよいのでしょうか。教会に集まる人たちの信仰をつぶさに見てきたパウロです。もちろんそこは心得ていて、ちゃんとどうすればよいか書いてくれている。それが今日の箇所です。さっそく見ていきましょう。

1 強められなさい

1) 主の大能の力によって

1節。「終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。」主を模範として歩むべきなのは頭でわかっていても、なかなかできない。そのときどうしたらよいか。一番先に思いつくのは、もっと努力しないとイケない。今日から聖書を毎日読もう。一生懸命祈ろう。もっと教会のために奉仕しよう。あの人この人にみことばを伝えよう。とにかく主に喜ばれることをしなければ。そんなふうを考える。もちろん、心から信じて無理なく、喜んでできるならそうすべきです。しかしよくありがちなことですが、肩に力が入ってどこか無理をしていると感じるならば、あまりいいことではない。うまくできなくなると、結局自分を責めておしまいです。何が間違っていたか。この短い1節から、二つの大切なことを教えられます。一つ目。自分の力でやろうとしてもすぐに限界が来る。私たちは、外から強められなければならない。いったい誰に強められるのか。それが二つ目。大能の力をもっておられる主によって。主の模範に従うためには、まず主の力をいただかなければならない。

2) 悪魔の策略と戦う

どうして人間の力ではいけないのでしょうか。その理由は11, 12節にあります。「悪魔の策略に対して堅く立つことができるように、神のすべての武具を身に着けなさい。私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。」

ふだん悪霊のことは、あまり意識することはないので、ここを読んで、急に恐くなる方もいるかもしれません。あらかじめ申し上げておきますが、そんなに怖がる必要はありません。ヘブル書2章14節に「イエスは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼした」と書かれていますので過度に怖がることはありません。しかし、わずかですが悪魔の手下がまだ残っていて、私たちがキリストから遠ざけようと働きます。それが悪魔の策略と呼んでいるものです。それに立ち向かうためには主の力によって強められる必要があります

2 神のすべての武具

1) 真理、正義、平和の福音

ではどのようにして悪魔の策略と戦うのか。そのことが14節から17節に書かれています。昔のサムライが身につけていた鎧兜を思い起こしながらを読むとわかりやすいでしょう。腰に真理の帯、胸に正義の胸当て、足には平和の福音、信仰の盾を持ち、救いのかぶとをかぶって、御霊の剣、すなわち神のことばを取る。全身すきがありません。これを全部身につけたら、悪魔はまったく恐くない。私たちを倒すことはできません。

2) 救い、御霊の剣である神のみことば

とは言っても、若い人ならいざ知らず、年をとってからだが思うように動かなくなってきた。病気で寝込んでいる。物忘れも激しくなって頭もぼんやりしてきた。こんな武具を着けて戦うなんてとてもできない。そんなふうにもうかもしれません。安心してください。これは譬えですので、実際に鎧兜を身につけて刀を振り回すわけではない。実は、私たちはすでにちゃんとこれらの武具、鎧兜をいただいて身につけています。どこにそんなものがあるのか。16節に「信仰の盾」とあります。17節に「救いのかぶと」、「御霊の剣、すなわち神のこ

とば」とあります。信仰と神のみことば。これさえあるならば、他の武具、鎧兜は全部備わっている。

3 武具を身につける

1) 信仰によって

こう言われても実感はわかりません。少し具体的に考えてみます。みなさんは、聖書のみことばを人生のなかで初めて聞いたときがあったはずですが、最初には私には関係ないと思った。けれども、それから何年か経っているうちに、あのとき聞いた聖書のみことばを思い起こし、心が引かれるようになる。知り合いや家族に誘われて教会の玄関をくぐり、聖書のみことばを解き明かしてもらってわかったこと。私は神に逆らって罪を犯してきた。その罪のためにずっと苦しんで来た。その罪のために主イエス・キリストが十字架でさばきを受けられ、この私の罪は赦されている。そのことを信じた。それまではずっと聖書を疑って、教会に行こうとも思ってもいなかったのに、そんな自分がどうして信じられるようになったか。どうにも説明ができない。ずっと後になってから教えられた。「それは、神の力である聖霊があなたに働いていたからです。」そんなふうに言われました。

もしみなさんが、聖書のみことばを読んで、信じて救いをいただいているのなら、みなさんは悪魔の策略と戦う武具はちゃんと備えている。身につけている。ですからもう恐ろしいものはありません。どこからかかってきても大丈夫。

2) 罪を思い起こしキリストの愛を知る

こんなふうに安心させておきながら、反対のことを言うようで申し訳ないのですが、私たちは確かに悪魔の策略に立ち向かう武具は全部いただいている。その点は安心してよい。しかし一方、やはり悪魔も頭がよい。策略をめぐらして、私たちが攻撃しようと待ち構えています。私は守られているから大丈夫と思っていたら手痛い傷を負うことになります。地震や風水害のたびに日頃の備えが大切ですよと言われます。これも同じ。どんな備えか。標語のように、「気をつけましょう」と書いて壁に貼ってもおそらく無駄でしょう。

そのヒントはすでにこの手紙の最初のところに書かれています。2章1, 2節。「あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、かつては、それらの罪の中であってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順

の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。」「空中の権威を持つ支配者、不従順の子ら」、これは悪霊のことです。いまさらながら、悪霊と聞いて恐いと言っていますが、実は救われる前は皆さん全員が悪霊の言いなりになっていた。思い出したらぞっとするような話です。そんな私たちはどうなったか。2章4, 5節。「あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくださったその大きな愛のゆえに、背きの中に死んでいた私たちを、キリストとともに生かしてくださいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。」

神がどれほど私たちを愛してくださったか、その愛の深さをどうしたらよくわかるようになるのでしょうか。ときどき聞く質問です。難しいことはありません。答えは簡単です。神の愛がわかる方法は、たった一つしかありません。自分がどれほどひどい罪人であったか。そのことを思い起こしていく。それだけです。でも、信仰のない方にいきなりこんなことを言うと、怒る人もいるくらい、ふつうはやりたくない作業です。

しかし、私たちにはキリストがいます。主と一緒にこの作業を手伝ってくれる。その罪が、人に言うのも恥ずかしいくらいどす黒くてひどい。それがわかればわかるほど、神の愛がそれに反比例してわかっていく。そういう仕掛けになっている。

最初はこう思います。こんな罪深い者を神は愛してくださるはずはない。私は天国に入る資格はない。神は私を見捨てるに違いない。罪がわかればわかるほど悲しくなっていく。しかしイエスはだれを救うと言いましたか。神の前に正しいことをしていますと祈ったパリサイ人が救われたのか。いいえ。天に目を上げることができず、胸をたたいて自分の罪に苦しんでいた取税人を救いました。

主が大能の力を発揮して私たちを強めてくださるのは、どのようなときか。このことからわかります。私たちが主の前でもっとも弱くなったときです。そのとき、主が私たちを大能の力で覆ってくださいます。悪魔もこの力に勝つことは絶対にできません。主は、それほど力を与えてくださいます。このようにしてくださる主とともに歩んでまいります。